

2022(令和4)年度 長野県工科短期大学校 事業計画・評価表

分野	事業計画				自己評価		外部評価						委員コメント
	大項目	小項目	担当	取組内容	自己評価	評価の根拠	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F	
教育	社会に期待される人材教育	・カリキュラムの見直し ・ITリテラシー教育の充実 ・専門知識と実践力の習得	企画総務委員会、教員	・長年改訂されていなかったカリキュラムの見直しを全学科で行い、新カリキュラムを制定 ・コンピュータリテラシーの全学科（1年時）への導入 ・データサイエンス・AI概論を全学科（2年次）に導入	S	・高校でのコンピュータリテラシー教育が必ずしも十分でなく、職業高校、普通高校出身者共にIT能力を高めることができた。 ・上記リテラシー教育の功で知能情報学科以外の学科でも、データサイエンス・AI概論のスムーズな導入が期待できる。	S	S	S	S	S	S	・知識と実践力を高いレベルで合わせ持つ人材を育成するため、新たなカリキュラムを制定し実施しており、さらなる教育効果が期待できる。 ・データサイエンス教育への積極的な取り組みは大変よい。応用基礎レベルのPBLなどもできるとより一層よい。 ・データサイエンスとAIに関する科目を導入したことは、高く評価できる。自己評価の根拠は妥当である。 ・学生の状況に応じたカリキュラムの見直しを行っている。 ・時代のニーズに即応した教育内容の見直しであり、今後も引き続き、検討願いたい。 ・現代社会には不可欠な情報リテラシーの向上に寄与 ・専門知識の習得による高い就職率
	授業理解の促進	・大学導入教育 ・専門科目の履修	企画総務委員会、教員	・1年前期における導入教育 ・大学レベルの数学修得を容易にするための機会提供と基礎数学の充実	b	・4月に導入教育として、「アカデミック・スキルズ」を実施した。 ・各学科、1年前期において、学生のレベルに応じた高校数学の演習科目を実施した。 ・全学科において、大学数学基礎として、微積分と線形代数講義を導入した。	b	b	b	a	a	b	・学生が授業を理解するために常に工夫を加えた授業を展開し、熱意を持って教育に取り組んでいる。シラバスを示し、授業評価も行っている。 ・数学の基礎教育の導入は、データサイエンス教育にも大切で良い取り組みである。 ・微積分と線形代数が、工学やものづくりなどのように役立つかを、学生に教えて欲しい。 ・専門高校出身の学生は普通高校に比べると数学力が弱く、このような取り組みは生徒にとっても有効と思われる。 ・重要な課題である。体制面等もあり、対応に難しい面もある。少しずつの前進を期待する。
	工科短期大学校3つのポリシーの策定	・3つのポリシーの策定	企画総務委員会	・アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを検討、策定 ・3つのポリシーについて、高等学校等へ通知し、校ホームページ等で広報、周知	b	・3つのポリシーについては、今後学校運営の基盤となるため、学内教職員の重要な意識共有を図ることができた。 ・アドミッションポリシーについては高校生等に対し、入学受け入れ方針を明示することができた。 ・ディプロマポリシーについては高等学校や教育研究振興会会員企業への周知を計り、本校卒業生の能力について理解が深まったと思われる。	a	b	b	a	b	b	・3つのポリシーを策定し、工科短大の進む道を具体的に明示した。外部の人たちにも工科短大の立ち位置が理解できるようにした。 ・制定だけでなく、今後の周知に期待する。 ・理念を策定して共有することはとても大事なことで、自己評価は、妥当である。 ・3つのポリシーを策定し、関係者全員で共有・実践。 ・アドミッションポリシーについては、受験生に対し、分かりやすい表現である。
	大学3年次編入学制度の実現	・大学3年次編入学制度の実現	企画総務委員会	・構造改革特区制度を利用し、大学3年次編入を実現 特区の認定申請書をR4年末までに内閣府に提出	S	・2022(R4)年6月構造改革特区法改正案成立。その後、長野県が認定申請書提出。2023年1月、内閣総理大臣より、長野県内理工系学部への3年次編入学制度の認定を受けた。	S	S	a	S	S	S	・長年の夢をかなえた素晴らしい成果である。今後は、ぜひとも編入者が誕生することを期待する。 ・今年度は合格には至らなかったが、学生が受験まで希望したことは大変な成果。実績づくりが大切である。 ・大学編入制度を導入する目的をもっと広く共有した方がよい。 ・編入制度は画期的な取り組みである。 ・全国初となる職業能力開発短期大学校からの修了者の大学編入学事業の特区制度認定。この制度を活用した学生のチャレンジ。 ・地域からも大変期待が大きい。是非編入をまずは1名を期待する。
研究	研究の推進	・研究活動の活性化 ・共同研究による地域貢献	教員	・学会発表や学術専門誌への投稿 ・地域企業等との共同研究の推進 ・信州大学工学部、繊維学部等との共同研究・プロジェクトの推進	a	・教育研究振興会の事業として、研究助成を年間3件まで支援できるよう制度を拡充した。 ・校長、副校長による、共同研究等プロジェクトの推進、支援を行った。 ・信州大学繊維学部と2件の共同研究プロジェクトを実施すべく協議開始した。	a	a	a	S	a	a	・研究は、教育と並び短大の大きな柱である。教員個々の研究と共同研究がバランス良く行われている。研究がますます進展することを期待する。 ・自分のところだけできることは限られるので、共同研究が進展することを期待する。 ・研究活動を積極的に進めていると判断する。 ・積極的な実施を期待。 ・教育研究振興会の支援による研究助成制度。学校管理者（校長・副校長）によるプロジェクト支援 ・多数の研究テーマの実践 ・研究活動の充実を期待。
	研究資金の獲得	・外部研究資金の申請	教員	・外部資金の獲得	b	・科学研究費等の外部資金獲得を奨励し、コンプライアンス研修を行った。 ・（公財）TAKEUCHI育英奨学会研究助成に2件採択された。	b	b	b	a	b	b	・科学研究費をさらに多く獲得するよう期待する。その他の外部資金にも積極的にチャレンジして欲しい。 ・単独だけでなく、職員の連携あるいは外部との連携で外部資金獲得に取り組むと良い。 ・自己評価は妥当である。 ・競争的資金2件の獲得 ・教員の事務的な負担を減らせるようにサポートも検討されると良い。
地域貢献	地域社会への貢献 産学官連携	・地域、科学イベントへの参加	広報委員会、教職員	・青少年に科学技術に親しむ機会を提供 ・青少年に科学の興味深さや面白さを伝えるイベントへの参加 ・ものづくり教室 in 工科短大の開催 ・まちなかキャンパスうえだ（まちなかキャンパス）の活用	b	・夏休期間中、青少年のための科学の祭典、ふしぎ・なるほど・おもしろサイエンスに参加し、科学の面白さを伝えた。 ・ものづくり教室 in 工科短大を2回開催した。 ・まちなかキャンパスうえだでの市民向け講座は、新型コロナ感染拡大により中止となった。	b	b	b	a	b	b	・地域の老若男女に科学技術の楽しさを伝えていただきたい。特に高校生やその親に。 ・新型コロナウイルスも落ち着いたので今後に期待する。 ・科学技術やものづくりの魅力をより多くの人々に伝えてほしい。内部自己評価は妥当である。 ・多忙な中だが、学校全体で取り組んでほしい。 ・次世代を担う児童・生徒を対象としたサイエンス・テクノロジーの理解促進 ・交通アクセス面で便利な場所とはいえませんが、高校生が、授業等を気軽に見学できる機会があると良い。 ・+519worklogde（上田市技術研修センター）との連携なども模索できれば良い。
		・信州P-TECH教育体制の新設	DX推進委員会	・信州P-TECH（ものづくり技術をもつDX人材を、企業・高等学校・工科短大が連携して育成する5年間の教育モデル）のスタート	a	・2022年9月信州P-TECHコンソーシアムがスタートし、3者の連携による教育が始まった。	a	a	b	S	a	S	・新たな教育モデルがスタートした。確実に円滑な運営が期待される。 ・各ステークホルダーの連携による大変前向きな取り組みであるので、発展を期待する。 ・計画通りの進捗であると判断する。 ・地元の高校との連携もお願いしたい。 ・関係機関の参画によるコンソーシアムを組成し、P-TECHによるIT教育の推進 ・町田工業高校に伺いTokyo P-TECHの取組を視察した。信州版も期待する。
校運営	広報の活性化	・認知度向上	広報・入試委員会	・高等学校単位での見学の随時受け入れ ・オープンキャンパスの実施	b	・岡谷工業高校、丸子修学館高校など7件の見学受け入れに成功。 ・オープンキャンパスは3回開催した。	b	b	b	a	b	a	・豊富な実績を記した紀要やガイドブックは活動の多くを確実に伝える内容である。より多くの人々に読む機会を与えて欲しい。 ・マスクミなどの露出度を増やす努力をされてはどうか。 ・自己評価は妥当である。 ・専門高校等を対象とした見学受け入れとオープンキャンパスの実施 ・日々の業務に加えて、受け入れ業務も大変かと思うが、高校生にとっては、大変良い機会である。
	知能情報システム学科教員の増員	・教員6名体制への回復	企画総務委員会	・5名体制に減員されていた教員の6名体制を実現	a	・2023年4月教員1名増を実現した。（昨今のDX・IT人材育成の必要性の高まりを受け実現）。県の機関で定員増を達成できたことは、画期的な成果と考えられる。	a	a	a	a	S	S	・教員1名増はきわめて大きな成果である。ますますの発展が期待される。 ・教育体制の強化は大変好ましいことである。 ・自己評価は妥当である。 ・県の職員定数見直しの中、教員の増員を実現 ・県からの人材育成や輩出の期待を感じる。積極的に紹介をされると良い。
	入学試験受験者数	・入学試験出願倍率	教職員	・校の魅力向上やあらゆる広報活動とおし、入学試験出願倍率（出願者数/定員数）1.5を維持	a	・出願倍率1.5を実現した。（3年次編入制度を実現したこと、また本校は省庁大学校であり専門学校ではないことを明確にした広報活動などが寄与したと考えられる。）	S	a	a	a	a	a	・出願倍率1.5は、教育・研究・地域貢献の活動に熱心に取り組んできたことで得られている。 ・18歳だけでなく、幅広いニーズへの対応を検討頂くが良い。 ・自己評価は妥当である。 ・少子化の中、目標の入学試験出願倍率を維持 ・女子学生が増える工夫を少しずつでも取り入れてもらいたい。（他大学の女子学生に聞くのも一手かと思う）

【評価区分】 s：事業計画を大幅に上回る（特に優れる若しくは顕著な成果） a：事業計画を上回る（計画を上回って十分な実施） b：事業計画を実施（計画どおりに実施） c：事業計画はやや遅れている（計画をおおむね実施若しくは下回る実施） d：事業計画を十分に実施せず（特に劣る若しくは実施せず）

自己評価より高い評価 自己評価より低い評価